

第 3 回北川村文教施設・子育て環境等整備事業基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和 3 年 1 0 年 1 3 日（水） 1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 4 5
開催場所	北川村立北川小学校 多目的ホール（オンライン併用）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 森本委員、小笠原委員、田中委員、山崎（美）委員、山崎（和）委員、小松委員、阿部委員、田所委員、弘田委員 永野委員長、伊庭委員、倉斗委員及び中山委員（リモート参加） 計 1 3 名 ■ アドバイザー 柳川アドバイザー ■ GPMO 湯川 ■ Founding Base 真鍋 ■ 事務局 野見山副村長、西岡教育次長、百々次長補佐、溝渕主幹
議題	<ul style="list-style-type: none"> （ 1 ） 開会 （ 2 ） 前回内容の確認 （ 3 ） ワークショップのご意見に見る北川っ子の現状 （ 4 ） 北川村における教育の方向性について <ul style="list-style-type: none"> ・ 本村の教育の方向性 ・ 企業と連携した取り組み（公営塾：株式会社 Funding Base より） （ 5 ） 今後のスケジュールについて <ul style="list-style-type: none"> ・ PPP/PFI に係る検討スケジュール（株式会社 GPMO より） ・ 次回の日程について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回検討委員会議事録【資料 1】 ・ 基本計画報告書 目次（修正案）【資料 2】 ・ 北川っ子の現状について～地域・教職員ワークショップからの分析～【資料 3】 ・ 北川村における教育の方向性【資料 4】 ・ 企業と連携した取り組み Founding Base 資料【資料 5】 ・ PPP/PFI に係る検討スケジュール案【資料 6】

議事経過	<p>(1) 開会</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局挨拶
議事経過	<p>(2) 前回内容の確認について(第2回検討委員会議事録【資料1】・基本計画報告書 目次(修正案)【資料2】)</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料1】【資料2】に基づいて説明 ・目次(修正案)について委員了承
議事経過	<p>(3) ワークショップのご意見に見る北川っ子の現状(北川っ子の現状について～地域・教職員ワークショップからの分析～【資料3】)</p> <p>【柳川アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料3】を基に説明 <p>【山崎美砂委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川の子は、素直で真面目で、人懐っこい部分や人を信じている部分など良さがある。課題としては、北川村のような良い環境ではなく、不慣れな環境になった場合に、自分の力が発揮できないことや人見知りになってしまう部分もあると感じている。 ・自分を小さい頃から知っている大人たちに対して恥ずかしがったりする部分もあるので、そういったものを克服できるような、チャレンジ精神を養う環境を整えられたらと考えている。 <p>【山崎和美委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時期にでてくる課題において、乳幼児期に何か対応できることがあれば、保小中一体化は意味があると考えている。 <p>【伊庭委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育について何か課題はないか。 <p>【柳川アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップではそういった課題はまだでていない。小規模多機能施設「ゆずの花」という場所は、子どもの居場所になっている。また、公営塾の存在など、学校以外に子どもの居場所があることは重要ではないかと考えている。 <p>【伊庭委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育も一体的に考えていかないといけないと考えている。 ・私の50年前の和歌山県での経験であるが、個人図書館の取り組み(大人の生き様や年上の人間が生徒に話をするなど)は意味があったと感じている。そういった取り組みを企画・運営するコーディネーターの存在は重要である。

	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、放課後こども教室においては20名ほどが参加している。また、学カステップアップ教室も村民会館で開催していて、そちらにも自分の学年の対象日に児童が参加している。子ども会の卓球やバレーに所属している子は、週2～3回体育館の方で活動しており、これが放課後の小学生の過ごし方になる。中学生公営塾は7月から夜間に開催している。活動などのコーディネーターについては配置に向けて検討していく。 <p>【倉斗委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校では、地域との繋がりが強くて、その地域の活動が伝統的になったりしている事例は多い。一人の子どもに関わる地域の方、大人の数は都市部よりも多いのではないかと考えている。 ・先生方が気になっている集団行動などの能力の部分については、多様性や個別最適といった言葉があるように、国際的に活躍できる人材を育てるような観点もある。そういう点では、北川村の子どもたちの人懐っこさなど素晴らしいとっていて、北川村のブランド・特性としてあるのではないかと感じている。 <p>【永野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の教育の現状をみてきた経験から、子どもは素直に育っているが自分のことを表現しながらコミュニケーションを取ることがなかなかできないという似たような中山間地域の子ども達の実態がある。そのような環境の中で、学校でどのように育てていくのが先生方の悩みだと認識している。 ・一旦、教育課程の網を外して、多角的に教育を捉えてもいいのではないかと。もっと言えば、学習指導要領に基づかず、中山間地域なりの教育のあり方を検討して、今ある常識を外して中山間地域の子ども達の課題解決を図るようなチャレンジをしていただきたいと考えている。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川学を本格的に初めて3年目になるが、いわゆる地域学としての学びの他、企業と連携した様々な活動などを通して、北川村ならではの学びの有り様を構築していきたいと考えている。 <p>【小笠原委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月28日に開催された保小中教職員が参加されたワークショップでされた意見「ICTの活用が進んでいるからこそ、子どもたち同士の繋がりや本物に触れるという体験を大切にしてもらいたい」という意見に注目している。自然に囲まれている、一次産業があるのは北川村「だからこそ」である。少人数の環境などは高知市とは違う環境に恵まれている。そういう点が保小中教職員ワークショップででたのではないかと理解している。
--	--

<p>議事経過</p>	<p>(4) <u>北川村における教育の方向性について(北川村における教育の方向性【資料4】・企業と連携した取り組み Founding Base 資料【資料5】)</u></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料4】を基に説明 <p>【Founding Base 株式会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料5】を基に説明 <p>【小笠原委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問であるが、北川村子育て教育ビジョンにおいて、Founding Baseの提案にある農業プロジェクトがどのように関係し、位置付けられているのか。
-------------	---

【事務局】

- ・ビジョンには、ファウンディングベースさんから今回御提案いただいた事業は現在明確には位置付けられていない。基本計画や今後改定していくビジョンの中に北川村ならではの特色ある教育の内容として盛り込んでいくことを見据えて御提案いただいたもの。ただ、全く関係ないわけではなく、北川学でも現在小4と中2がゆずの学習をしていたり、今年度からファウンディングベースさんに中学生向けの公設公営塾を運営していただいたり、何よりも村の総合戦略でゆず農家の担い手育成や産業化が謳われている中で、教育的な側面からも支えていかなければならないという観点も意識して御提案いただいたものであり、今後の改定に向けて検討していきたいと考えている。

【小笠原委員】

- ・基本計画を検討している中で、今回御提案いただいた農業プロジェクトの目的や目標については北川村の農業プロジェクトとしてはトーンが低いのではないかと。本村の実態や総合戦略の方向性も踏まえて基本計画を検討しているという側面もあることから、今後提案をいただければありがたい。

【中山委員】

- ・小1プロブレムについて、いま具体的に現れている問題などがあれば教えてほしい。また、保育所は家庭で保育できない子どもを受け入れる施設であり公的にサポートできるが、保護者が就労していなくて家庭にいる場合の子のサポートは現状ではどうなっているのか。

【事務局】

- ・小1プロブレムについては、近年小学校へは5名ほどの入学になっているが、教職員が温かく迎え入れて、教職員同士の連携は具体的に進んでいるので、現在はそこまで問題は少なくなってきていると認識している。
- ・保育については待機児童なく6ヶ月、1年から対象の方々を預かっていると把握している。

【山崎美砂委員】

- ・スタートプログラムを実施していく中で、入学後徐々に子どもたちが学校生活に慣れてくると考えている。

【山崎和美委員】

- ・保護者のみなさんは、お仕事に行かれる方がほとんどで子どもを預かってほしいというニーズが高い。

【中山委員】

- ・学校教育法に基づく幼稚園機能も併設することで、就労していない層（保育所の利用をしない層）にもアプローチしていくことも重要ではないか。

【伊庭委員】

- ・官民連携において雇用、教育、医療福祉、エンタメがキーワードの中で、難しいのは教育分野である。より視野の広い子どもを育てているが、逆に子ども達の中では自分を縛り付けている地域に対して嫌悪感を持ち始めるという状況もでてくるし、教育を素晴らしくすればするほど、子どもが村外へ出て行くという状況はある。そういうこともあるという認識を持って、良い教育が裏目に出ないような取り組みも必要ではないかと感じている。

(5) 今後のスケジュールについて (PPP/PFIに係る検討スケジュール案【資料6】)

【GPMO 湯川】

- ・【資料6】に基に説明

【伊庭委員】

- ・サウンディングがあることで手続きはより煩雑になってくることも想定しており、そのような中でサウンディングと公募を一緒にできないか。国土交通省の方では、民間提案を受け付けてからその後予算を取って進めていくという手法も検討されている。成功報酬型などの様々な形態もある。できるだけ簡素化した手法が重要なのではないかと考えている。北川村の場合は、事業費は大きくならないと考えているので、できるだけコストをかけないようにするのが良いと考えている。そうではないと、結局行政コストが高くなってしまって、本末転倒になってしまう。
- ・また、サウンディングにおいて、ハード面は民間提案においてコスト削減をするなどある程度意味があると考えているが、ソフト面はすでに北川村で様々な取り組みを行っているので、現在行っている村の取り組みを重要視した方が良いのではないかと考えている。

【GPMO 湯川】

- ・現状、DMMさんなどとの具体的な教育サービスの官民連携が進んでいるが、さらなる教育サービスについて様々な事業者から提案をもらえないかと整理しているところである。

【小笠原委員】

- ・サウンディングのスケジュールを見ると、地域住民のワークショップが終わった後にサウンディングの実施結果が出ることになっているので、地域住民からすると自分たちの意見がどういった形で反映されて計画に反映されたのかがわからないのではないかと考えている。何らかの形で地域住民にどういった内容だったのかを周知する必要があるのではないかと考えている。

【事務局】

- ・現状のスケジュールでは、おっしゃる通りであるため、全戸一斉配布や第4回目の地域住民ワークショップを開催するなど何らかの方法で地域住民のみなさんに知らせる方法を取りたいと考えている。その点については、柳川アドバイザーやGPMO様と相談しながら進めていきたい。

【田中委員】

- ・ここ数年、保小中の連携は深まり、学校が活性化していると理解している。それぞれの先生が現場に出向いていただいて交流も進んでいる。北川学においても、地域住民も喜び、子どもたちも元気になっているという状態だと思っている。また、映像コンテストや新聞づくりコンクールの受賞が世間に認められたことは、学校の先生や子どもたちの努力でできたことではあるが、現状の施設の中でもできたことである。今の取り組みが良いとするならば、新しい学校をつくることでその取り組みがさらに効率的に、より良いものにならないといけないと思っており、さらなる取り組みに期待したいと思っている。

議事経過

	<ul style="list-style-type: none">・また、人口が減っていく中、全ての学級で複式学級になると、あまり良い印象を持っていない人もいる中で、その対応としてＩＣＴを活用して他の学校の子どもたちと繋がって、複式学級特有の状況を和らげていくことなどが求められる。子どもたちの教育を本当に支援していく空間を作ってもらいたいし、地域から受け入れられるエリアであり、保育や学校であるというような構想をとりまとめていただくことを期待している。
--	--

議事経過	<p>(7) 次回の検討委員会について</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none">・次回は10月27日(水)19時～になる。
------	--